

## 背景

- 中長期的な視点で企業価値を評価する際に、ESGを考慮する投資家が増加。上場会社も、ESGに関する取組みや情報開示を拡大。
- こうした流れを受けて、国内外の様々な主体が策定した、ESG情報の開示に関するスタンダード・基準、フレームワーク、ガイダンスが存在するが、それらの差異の理解や海外で策定されたものについて日本語の情報が限定的なことに上場会社の悩みがあるとの声。

## 目的

- これからESG情報の開示を始めようと考えている上場会社を主に念頭に置きつつ、全上場会社にとって参考となるものとして作成。
- 上場会社がESGやESG投資の現状を理解し、自社に適した形でESG課題への取組みを進め、投資家をはじめとするステークホルダーと対話することで中長期的な企業価値向上を目指す際に参考となる情報を提供することが目的。

## 特徴

1. 上場会社が、ESG課題に取り組み、情報開示を行うための検討ポイントを紹介。上場会社が自社の状況に合わせて必要な部分を参照できるように**4つのステップ**にまとめている。
2. 投資判断に有用な情報の開示を促す観点から、**投資家の視点（マテリアリティ（重要課題）の特定と企業戦略との結び付き等）**を盛り込んでいる
3. 上場会社がESG情報開示を実践するにあたり参考となる**既存の情報開示の枠組み**（SSEガイダンス、TCFD、SASB、価値協創ガイダンス等）や、それを使った**企業の開示例**を紹介している。

## 4つのステップとその趣旨

- 開示作業や開示項目のみに着目するのではなく、そこに至るまでに**ESG課題と企業価値を結び付けるためのプロセスを経ていくことが重要**であるという考えのもと、ESG情報の開示に至るまでのプロセスを以下のとおり4つのステップに整理。
- このステップは絶対的な方法ではなく、上場会社が自社の状況を踏まえて可能なところから着手し、ESG情報の開示、投資家との対話等が進むことを期待。

### 「ESG情報開示実践ハンドブック」を構成する4つのステップ

#### Step1 ESG課題とESG投資

##### 1-1 ESG課題とESG投資を理解する

- ESGと企業価値
- ESG課題
- ESG投資の拡大
- ESG投資と投資家の受託者責任
- 多様な投資家
- 投資家からのESG情報開示要請
- ESGとコーポレートガバナンス・コード
- ESG課題と企業活動

#### Step2 企業の戦略と ESG課題の関係

##### 2-1 企業の戦略への影響を考える

##### 2-2 マテリアリティ（重要課題）を特定する

- ESG情報におけるマテリアリティ
- マテリアリティ特定の意義
- マテリアリティ候補リストの作成
- ESG課題の重要度の評価
- 戦略への組み込み

#### Step 3 監督と執行

##### 3-1 意思決定プロセスに組み込む

- 組織トップのコミットメント
- ガバナンス

##### 3-2 指標と目標値を設定する

- 指標の設定
- 目標値の設定
- PDCAの実施

#### Step 4 情報開示と エンゲージメント

##### 4-1 開示内容の整理

- ESG課題と企業価値の関係
- 投資家の情報源

##### 4-2 既存の枠組みの利用

- 情報開示の枠組み

##### 4-3 情報提供時の留意点

- 情報を開示する媒体
- 英語での開示
- ESGデータの保証

##### 4-4 投資家との双方向のエンゲージメント

- 目的を持った対話
- 多様なエンゲージメントへの対応